

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02596

研究課題名(和文) 障害と多文化を包摂するインクルーシブ保育の理論化と実践モデルの構築

研究課題名(英文) Theorizing and constructing a practical model of inclusive childcare that embraces children with disabilities and different cultures

研究代表者

芦澤 清音 (Ashizawa, Kiyone)

帝京大学・教育学部・教授

研究者番号：20459382

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：多様な保育実践の分析を通して、子どもの人権の尊重、中でも意見表明権を重視することが、多文化や障害など多様な背景を持つ子どもが共生し育ち合うインクルーシブな保育環境をつくる上での基礎となることを明らかにし、保育がインクルーシブになるためのプロセスと5つの具体的な原則を提起した。研究成果は7名の共著「すべての子どもの権利を実現するインクルーシブ保育へ：多文化共生・障がい・家庭支援・医療的ケア」として出版した。子どもの人権を土台にしたインクルーシブ保育の価値を明らかにし、従来の障害児を中心としたインクルーシブ保育の理論を発展させ、保育実践のための具体的な原理原則を提示して実践モデルを構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の社会的意義として、1つ目は、インクルーシブ保育の理論を子どもの人権の視点から再構築したことである。子ども権利の実現をめざすこと、特に意見表明権を重視する視点から保育を構築することで、急速に多様化する保育現場の子どもが育ちあう保育が可能であることを明らかにした。2つ目は、保育がインクルーシブになる具体的な原理原則を明確にしたことで、現場の保育者が実践を行う上で、具体的な環境構成、保育方法が明確になり、保育現場への導入が容易になったことである。多様化する社会において、共生社会を目指す乳幼児期からの子どもの育ちを支える理論と具体的方法論が明確になったことは社会的に意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：Through analysis of various childcare practices, respect for children's human rights, especially the right to express opinions, is the basis for creating an inclusive childcare environment where children with diverse backgrounds, such as different cultures and disabilities, coexist and grow together, and proposed a process and five concrete principles for making childcare inclusive. As a results of our research, we published the book titled "Toward inclusive childcare that realizes the rights of all children: different cultures, disabilities, family support, and medical care". We clarified the value of inclusive childcare based on children's human rights, developed the conventional theory of inclusive childcare centered on children with disabilities, and constructed a practical model by presenting concrete principles for childcare practice.

研究分野：発達臨床心理学

キーワード：インクルーシブ保育 意見表明権 子どもの人権 多様性 障害 多文化共生

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

インクルーシブ保育は、子どもの多様性をキーワードとし、多様な背景を持つ子どもが排除されることなく育ちあう保育の創造を目指すものであるが、実際は、障害児に焦点があてられ、障害児を包摂する保育の在り方が追及され理論化されてきた。子どもの背景が急速に多様化する現在において、多様性を前提とする保育を構築する上で、偏った理論であり、そのため、保育現場において障害児の統合保育との差異が理解されにくい状況であった。

保育現場の子どもの多様化において顕著なのは、外国にルーツのある子どもの急増である。そして、外国にルーツのある子どもの保育や支援に関しては、多文化共生という文脈で研究が蓄積されていた。多様性を前提とし、保育における共生をめざすインクルーシブ保育を構築するためには、多文化共生の視点を取り入れ、多文化と障害を包摂する保育の在り方を示し、子どもの多様化の実態を反映したより包括的な理論に発展させていく必要があった。

2. 研究の目的

(1) 障害と多文化を包摂する新たなインクルーシブ保育の理論構築

多様性を生かし、保育における共生をめざすために、これまでのインクルーシブ保育理論を総括した上で、多文化共生保育の視点から検討を加え両者を統合しうる『障害と多文化を包摂する理論』の構築に取り組む。

(2) 新たな理論に基づく実践モデルの構築

理論が実際に現場に役立つものとなるためには、具体的な実践モデルを提示していくことが必要である。そのため、多くの保育実践の検討を通して、包括理論に基づく実践モデルを構築する。

3. 研究の方法

(1) 定期的な研究交流と自主シンポジウムの開催

7名の共同研究者は、障害児を中心としたインクルーシブ保育の研究者、多文化共生保育の研究者、障害児及び海外の保育の研究者から構成されている。そのため、新たな理論構築に向けて、相互理解と共通の価値観の探究を目的として、1～2か月に1度のペースで定期的な研究交流を開催した。その上で、日本保育学会において、「障害と多文化を包括するインクルーシブ保育の可能性」と題して2019年、2020年（同タイトル(2)）、2022年（同タイトル(3)）に連続で自主シンポジウムを開催し、実践交流と理論化を進めた。

(2) 質問紙調査

日本保育学会における自主シンポジウムの開催以外に、共同研究として質問紙調査を行い、2021年に日本保育学会でポスター発表を行った。コロナ禍でのインクルーシブ保育についての質問紙調査である。対象は、都内23区の公立保育園41園であった。

(3) 保育実践の質的分析

各研究者がフィールドとする保育現場、及び、新たに開拓したフィールドにおいて、保育者への聞き取り、観察、保育資料の分析を蓄積し、学会発表、論文作成を行った。研究方法としては、質的研究方法による。

(4) 研究成果の出版に向けての共同作業

出版に向けて、共同研究を進める中で、インクルーシブ保育の共通概念として、子どもの人権が中核となることを見出され理論化が加速した。子どもの人権、特に、意見表明権（聴かれる権利）がインクルーシブ保育に共通の中心概念であり、それを尊重するという共通の価値観に基づいて、これまでの各自の研究を再構成し、1冊にまとめるという共同作業を行った。

4. 研究成果

(1) 子どもの権利の尊重、特に、意見表明権の尊重に基づいた保育環境の創造が、多様な背景を持つ子どもたちが、平等に保育に参加することを可能にし、インクルーシブ保育の実現に近づくことを、多様な実践の分析を通して明らかにした。

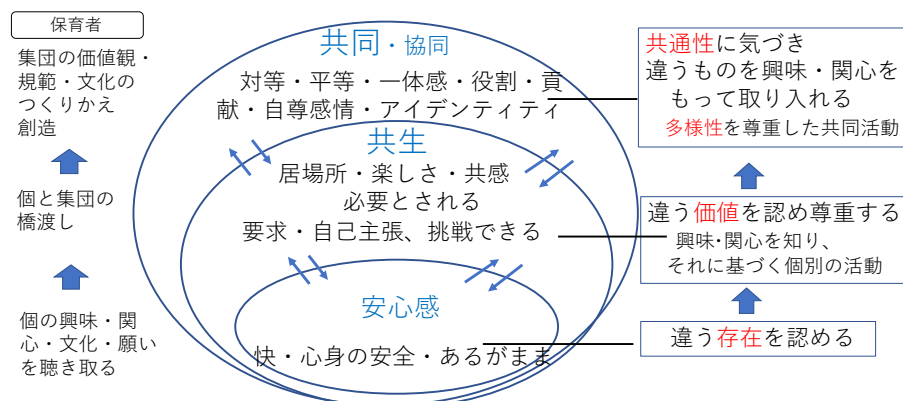
(2) 4年間の研究の集大成として、7名の共著で「すべての子どもの権利を実現するインクルーシブ保育へー多文化共生・障がい・家庭支援・医療的ケア」をひとなる書房より出版し、モデルとなる4つの保育実践と、研究を通して構築した障害と多文化を包摂するインクルーシブ保育の理論を提示した。

(3) 本書内において、多様性と参加をキーワードとしたインクルーシブ保育へのプロセスが、

山本理絵によって示された。意見表明権が重視され、どの子ども対等、平等に活動に「参加」する過程を示した図である (p181)。

インクルーシブ保育における参加と育ちあい

作成 山本理絵



(4) また、浜谷直人は、インクルーシブ保育の実践において重視される 5 つの原則を明らかにした (p196-201)。

- ① 活動内容に関する原則：活動内容は、子どもが関心をもって取り組みたいことを尊重し、子どもと保育者が対話することを通して決定される。
- ② 活動時間の開始と終了に関する原則：保育において、活動をいつ開始し、終了するかについては、活動の経過や展開の状況を重視し、子どもの時間を尊重して臨機黄変に進める。
- ③ 活動の歴史性の原則：子どもの取り組む活動には時間的つながりがあることを大切にし、保育者は、子ども間の活動をつなげたりしながら発展するよう関与する。
- ④ 活動の生成と発展のダイナミクスに関する原則：子どもの意見が尊重されるため、クラスの活動は、一人もしくは、少数から始まりうる。そのローカルな活動の魅力が周囲の子どもに伝わることで、大きな仲間の活動へと発展していく。保育者は、魅力的な活動を見出し、周囲の子どもに理解できるようにつなげていく。
- ⑤ カリキュラムの柔軟性に関する原則：事前の保育計画に対して、子どもが関心を示さず、他のことをしたいという意見を表明したときには、子どもの興味関心に則して柔軟かつ臨機黄変に計画を変更する。

(5) 実践モデルの構築に関しては、本書内で 4 つの実践を提示した。4 つの実践に共通するのが、それまでの保育のあたり前を見直すということであった。どの実践も、子どもの多様化によってそれまでの保育の見直しを迫られ、インクルーシブ保育へと舵を切った。

多文化共生実践 (五十嵐元子・林恵 著) では、多数の外国にルーツのある子どもたちと日本人の子どもたちが、遊びと意見表明の機会である「おはなし会」を通して、言葉の壁を越えてつながり育ち合っていく。これは、従来の多文化共生保育において、外国にルーツのある子どもの困難に焦点化したものとは異なり、それぞれの違いを活かした関係が構築されている。

家庭支援児を含む加配対象児がクラスの半数を超えたことにより、保育を見直さざるを得なくなった実践 (三山岳 著) では、異年齢保育への保育形態の変更を通して、保育がインクルーシブに変化していく。また、保育の小さな違和感から、一斉保育を子どもの選択を重視した保育へと転換した実践 (芦澤清音著) では、子どもの個々の意見から保育環境が創られていく。一方で、インクルーシブな保育への転換は、保育者の役割や関係の変化を生むことが明らかになった。医療的ケア児の実践 (西岡菜絵、山本理絵著) では、重度の障害があっても意見を表明していることに気付くことで、子ども同士が意見を尊重し合い対等の関係を築いていくことが明らかになった。意見表明、子どもの意見の尊重、違いを認め合い対等の関係を築くこと、活動への平等な参加という実践を構築する上でのキーワードが具体的な保育の中で浮かび上がった。

引用文献：芦澤清音、浜谷直人、五十嵐元子、林恵、三山岳、飯野雄大、山本理絵 2023 すべての子どもの権利を実現するインクルーシブ保育へー多文化共生・障がい・家庭支援・医療的ケアー ひとなる書房

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計41件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 浜谷直人	4. 巻 2022年度(3)
2. 論文標題 困難を抱えた子どもの保育：インクルーシブ保育に向けて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京都公立保育園研究会の広報 2022年度 (3)	6. 最初と最後の頁 6-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金 仙玉、工藤 英美、山本 理絵	4. 巻 14
2. 論文標題 【研究ノート】幼稚園における知的障害児を包摂したインクルーシブ教育の実践方法--韓国『2019改訂ヌリ課程運営支援資料』から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人間発達学研究 = Bulletin of The Graduate School of Human Development Aichi Prefectural University	6. 最初と最後の頁 91 ~ 101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00005162	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山本理絵	4. 巻 22
2. 論文標題 子どもの権利の視点からコロナ禍を考える	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中部教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 102-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐元子	4. 巻 8
2. 論文標題 帝京短期大学ユニバーサル・デザイン・プロジェクトの実践 ~ 専攻科こども教育専攻「障害児保育」の授業より ~	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 帝京短期大学教育実践報告集	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三山岳	4. 巻 6
2. 論文標題 インクルーシブな保育環境の構築に対する保育者の意識態度	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 早期発達支援研究	6. 最初と最後の頁 41-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三山岳	4. 巻 319
2. 論文標題 障がい児保育から思う「架け橋プログラム」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 保育問題研究	6. 最初と最後の頁 53-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬野 由衣、山本 理絵、三山 岳	4. 巻 71
2. 論文標題 早期子ども発達支援者研修プログラムの開発--名古屋市の研修に関わって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 愛知県立大学教育福祉学部論集 = Bulletin of The Faculty of Education and Welfare Aichi Prefectural University	6. 最初と最後の頁 27 ~ 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00005086	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 芦澤清音	4. 巻 6
2. 論文標題 稲葉実践から見えてくる幼児教育施設の多様性の保障と可能性 (特集 保育所保育指針・幼稚園教育要領の改訂をどうみるか)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 実践と研究 窓	6. 最初と最後の頁 76-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 芦澤清音	4. 巻 914
2. 論文標題 就学前教育の現状から低学年の荒れを考える（特集 小学校低学年の「荒れ」を問う）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 69-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤嘉一、福島健介、芦澤清音	4. 巻 10
2. 論文標題 保護者の安心感をつくる小一接続期の取組-保護者の意識調査を通して-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 帝京大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 165-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 芦澤清音	4. 巻 10
2. 論文標題 インクルーシブ保育を実現する保育形態についての一考察-主体的で豊かな遊びを保障する柔軟な保育をめざして-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 帝京大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 85-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山本理絵、金仙玉、工藤英美	4. 巻 13
2. 論文標題 韓国のインクルーシブ教育・保育の動向-『2019 改訂より課程運営支援資料』から-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人間発達学研究	6. 最初と最後の頁 61-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山本理絵、山中千尋、高尾晴香、國京恵子	4. 巻 70
2. 論文標題 異年齢クラスにおけるインクルーシブ保育の方法-プロジェクト活動の実践分析を通して-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知県立大学教育福祉論集	6. 最初と最後の頁 61-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00004763	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本理絵	4. 巻 13
2. 論文標題 インクルーシブ保育におけるプロジェクト活動の展開方法(2) - 異年齢クラスでの実践の分析を通して-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人間発達学研究	6. 最初と最後の頁 85-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浜谷直人	4. 巻 309
2. 論文標題 インクルーシブ保育とはどういう保育なのか(特集 保育の中の「多様性」とは)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊保育問題研究	6. 最初と最後の頁 8-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浜谷直人	4. 巻 256
2. 論文標題 仲間と共に自己肯定感を感じられる保育: インクルーシブ保育の視点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京都公立保育園研究会の広報	6. 最初と最後の頁 28-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林恵、五十嵐元子、若林秀樹	4. 巻 23
2. 論文標題 福井県越前市の外国人集住地域における保育－保育者の意識変容からインクルーシブ保育を考える－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 帝京短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 29-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐元子	4. 巻 716
2. 論文標題 どのおとも大事にされる保育	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保育者と父母を結ぶ雑誌 ちいさいなかま12月号	6. 最初と最後の頁 30-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐元子	4. 巻 309
2. 論文標題 保育の中の「多様性」と「多様性の尊重」を問い直す (特集 保育の中の「多様性」とは)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊保育問題研究	6. 最初と最後の頁 41-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐元子	4. 巻 309
2. 論文標題 コロナ禍における保育の物語とインクルーシブ保育－保育者のインタビュー調査から－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 帝京短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 183-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三山岳	4. 巻 309
2. 論文標題 多様性のある障がいと多文化保育の歴史からインクルーシブ保育を考える(特集 保育の中の「多様性」とは)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊保育問題研究	6. 最初と最後の頁 54-68
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林恵	4. 巻 310
2. 論文標題 アンコンシャス・バイアスとはなにか: 保育とジェンダー・バイアス(特集 保育の中のジェンダーを問う)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊保育問題研究	6. 最初と最後の頁 33-45
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯野雄大	4. 巻 313
2. 論文標題 事例を通して考える療育の意義と課題: 家族支援・地域支援とのつながりから	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊保育問題研究	6. 最初と最後の頁 72-81
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 芦澤清音、山本理絵、浜谷直人、三山岳、五十嵐元子、林恵、飯野雄大	4. 巻 第9号
2. 論文標題 コロナ禍で保育者はどのように保育をしているのかー障がい児および外国人幼児を含む保育の実態調査(速報)ー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 帝京大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 115-123
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本理絵、國京恵子	4. 巻 第12号
2. 論文標題 インクルーシブ保育におけるプロジェクト活動の展開方法 - 異年齢クラスでの実践の分析を通して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人間発達学研究	6. 最初と最後の頁 85-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三山岳、五十嵐元子	4. 巻 第58巻 第2・3号
2. 論文標題 日常の保育カンファレンスにみられる学びの構造	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 保育学研究	6. 最初と最後の頁 279-290
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐元子、三山岳	4. 巻 第21号
2. 論文標題 保育者の語りにもみる子どもの関係と対話の分析(1)支援が必要な子どもの周りにいる子どもに焦点を当てて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 帝京短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 37-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯野雄大	4. 巻 41巻2号
2. 論文標題 自閉症スペクトラム児を持つ母親が経験する「デイリーハッスル」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 心理科学	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20789/jraps.41.2_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田中浩司、飯野雄大	4. 巻 41巻2号
2. 論文標題 乳幼児教育における所属感 (Sense of Belonging) に関する文献的検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 心理科学	6. 最初と最後の頁 37-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20789/jraps.41.2_37	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 芦澤清音	4. 巻 254
2. 論文標題 調査報告 東京都二三区公立保育園の取り組みと展望	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京都公立保育園研究会 広報	6. 最初と最後の頁 6-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 芦澤清音	4. 巻 8
2. 論文標題 障害と多文化を包摂するインクルーシブ保育の一考察—困難を抱える外国籍の子どもがいる3歳児クラスがインクルーシブになる過程—	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 帝京大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 59-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浜谷直人	4. 巻 20
2. 論文標題 多様性がいきるインクルーシブ保育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福祉社会研究	6. 最初と最後の頁 11-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐元子	4. 巻 3
2. 論文標題 相談員と保育者の対話と協働を考えるーリフレクティング・プロセスを取り入れた保育巡回相談の実践について(研究ノート)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 早期発達支援研究	6. 最初と最後の頁 77-84
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐元子・福島玄	4. 巻 30
2. 論文標題 新しいツールとどう向き合い迎え入れるのか~保育現場におけるICTを考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊保育問題研究	6. 最初と最後の頁 8-23
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐元子・三山岳	4. 巻 21
2. 論文標題 保育者の語りにみる子どもの関係と対話の分析(1)-支援が必要な子どもの周りにいる子どもに焦点を当てて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 帝京短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 37-47
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三山岳	4. 巻 3
2. 論文標題 発達が気になる子について乳児期の保育者が認識する心理的プロセスの分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 早期発達支援研究	6. 最初と最後の頁 5-16
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三山岳	4. 巻 12
2. 論文標題 特別支援教育における教員間の連携について - 瀬戸市の特別支援学級の教員に対するアンケートをもとに -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生涯発達研究	6. 最初と最後の頁 73-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三山 岳・山本理絵・志村美和・瀬野由衣	4. 巻 12
2. 論文標題 幼児期からの就学移行相談・支援体制に関する研究 (概要)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生涯発達研究	6. 最初と最後の頁 85-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三山 岳・岩倉けいら・川上貴美恵・佐々木由美子	4. 巻 12
2. 論文標題 子ども福祉における多文化共生の今 - 療育・保育現場からの報告 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生涯発達研究	6. 最初と最後の頁 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本理絵	4. 巻 12
2. 論文標題 スウェーデンにおける就学前学校から小学校への移行	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生涯発達研究	6. 最初と最後の頁 91-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本理絵	4. 巻 28
2. 論文標題 異年齢保育が問われているもの - 異年齢保育実践の到達点と課題 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知保育問題研究	6. 最初と最後の頁 95-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 芦澤清音、五十嵐元子、林恵、三山岳、山本理絵、浜谷直人、飯野雄大
2. 発表標題 障害と多文化を包括するインクルーシブ保育の可能性 (3) 保育者の常識を問い直すー
3. 学会等名 日本保育学会第75回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 芦澤清音、山本理絵、三山岳、浜谷直人、五十嵐元子、林恵、飯野雄大
2. 発表標題 コロナ禍におけるインクルーシブ保育の可能性 (1) - 保育の取り組みと変化への気づき -
3. 学会等名 日本保育学会第74回大会 ポスター発表
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯野雄大、芦澤清音、五十嵐元子、浜谷直人、林恵、三山岳、山本理絵
2. 発表標題 コロナ禍におけるインクルーシブ保育の可能性 (2) - 担任保育者の自由記述から見た現状と取り組み -
3. 学会等名 日本保育学会第74回大会 ポスター発表
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 芦澤清音
2. 発表標題 インクルーシブ時代の発達支援を発達心理学から考える
3. 学会等名 日本発達心理学会第33回大会 大会企画シンポジウム 話題提供者
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 芦澤清音
2. 発表標題 インクルーシブ保育を実現する保育形態についての一考察ー斉保育を転換した保育園の取り組みからインクルージョンを考えるー
3. 学会等名 日本発達心理学会第33回大会 ポスター発表
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三山岳
2. 発表標題 子どもの言葉に焦点化し、子どもの理解を深める巡回相談、インクルーシブ保育を支援する巡回相談とは？
3. 学会等名 日本発達心理学会第33回大会 ラウンドテーブル 話題提供者
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本理絵
2. 発表標題 我が国の保育実践における所属感 (Sense of Belonging) 概念の適用可能性
3. 学会等名 日本保育学会第74回大会自主シンポジウム 指定討論者
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本理絵
2. 発表標題 コロナという災禍と祝祭の陰で
3. 学会等名 中部教育学会第69回大会シンポジウム 指定討論者
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯野雄大
2. 発表標題 我が国の保育実践における所属感 (Sense of Belonging) 概念の適用可能性 気になる子の登園しぶり問題を「所属感」から再考する
3. 学会等名 日本保育学会第74回大会シンポジウム 企画・話題提供者
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 芦澤清音、五十嵐元子、飯野雄大、三山岳、山本理絵、浜谷直人、林恵
2. 発表標題 障害と多文化を包摂するインクルーシブ保育の可能性 (2)
3. 学会等名 保育学会第73回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 芦澤清音・五十嵐元子・三山岳・林恵・山本理絵・浜谷直人・戸田有一
2. 発表標題 自主シンポジウム：障害と多文化を包括するインクルーシブ保育の可能性
3. 学会等名 日本保育学会第72回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 芦澤清音
2. 発表標題 保育者は障害と多文化にどう向き合うか
3. 学会等名 日本発達心理学会第31回大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 芦澤清音、浜谷直人、五十嵐元子、林 恵、三山 岳、飯野雄大、山本理絵	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ひとなる書房	5. 総ページ数 208
3. 書名 すべての子どもの権利を実現するインクルーシブ保育へ	

1. 著者名 市川裕二 緒方直彦 宮崎英憲、全国特別支援教育推進連盟（第3章3節pp223-228、4節pp252-257 飯野雄大）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ジアース教育新社	5. 総ページ数 272
3. 書名 特別支援教育における学校・教員と専門家の連携	

1. 著者名 山本理絵、望月彰、愛知県立大学「教育福祉学研究会」	4. 発行年 2023年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 232
3. 書名 教育と福祉が出会う支援	

1. 著者名 浜谷直人	4. 発行年 2019年
2. 出版社 困難を抱えた子どもの保育臨床とファンタジー	5. 総ページ数 119
3. 書名 新読書社	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	浜谷 直人 (HAMATANI NAOTO) (40218532)	東京都立大学・人文科学研究科・客員教授 (22604)	
研究分担者	五十嵐 元子 (IGARASHI MOTOKO) (30468897)	白梅学園大学・子ども学部・准教授 (42639)	2023年度より所属変更
研究分担者	林 恵 (HAYASHI MEGUMI) (60759380)	足利短期大学・子ども学科・教授 (42639)	2023年度より所属変更
研究分担者	三山 岳 (MIYAMA GAKU) (80582858)	愛知県立大学・教育福祉学部・准教授 (23901)	
研究分担者	山本 理絵 (YAMAMOTO RIE) (60249282)	愛知県立大学・教育福祉学部・教授 (23901)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	飯野 雄大 (IINO TAKEHIRO) (00737033)	山梨学院短期大学・保育科・准教授 (22604)	2023年度より所属変更

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関